令和6年度 第3回鴻臚館跡整備検討委員会 議事録

日時:令和7年2月16日(日) 14:00~17:00

場所:福岡市博物館多目的ルーム

出席者-----

【委員】

・佐藤委員長、杉本副委員長、坂上委員、池崎委員、岩永委員、伊東委員、包清委員、河上委員

【福岡県】

・福岡県文化財保護課:下原氏

【事務局】

・白石文化財活用部長、中村史跡整備活用課長、本田係長、岩永

【関係者】

・株式会社修復技術設計2名、株式会社エスティ環境設計研究所1名、株式会社トータルメディア4名

<開会>

協議事項 国史跡鴻臚館跡の復元整備について<復元建物及び地形>

委員

・鴻臚館の螭羽のおさまりについて、また破風の反り具合について、前回資料と今回と変更点があるのか。

⇒事務局

・細部のデザインと数字を若干変えている。前回資料と今回資料と対比できるよう図面を並べて、変更点を提示させていただきたいと思う。

⇒委員

・変えている部分があるなら、そのようにしていただければありがたい。

⇒委員長

・屋根の反り具合は、数字的な物でなくて、建築専門の方の感覚的なものになるので、専門の方に見ていただいて、決めるといいと思う。

⇒委員

・扁額は山田寺で出土例がある。

⇒委員長

・扁額の文面をどうするのか。

⇒事務局

・今回決めるわけではないが、委員の皆さまからご意見いただければ、ありがたいと思う。

⇒委員長

・連子窓について、寺院の窓のように緑にはしないという理解でよいか。

⇒事務局

・下野の復元建物でも、連子窓を緑にしている例があったが、門の上の連子窓という事例は、ほとんど見られな

かった。

⇒委員

・門の上部を連子窓にする古代八脚門の事例が確認できないとあるが、他の時代あるいは、中国・韓国など他の国の事例もないのかまで検討したかどうか示すべきではないか。

⇒事務局

・東門は常時閉められていると考えているので、連子窓があれば採光の面でも有利に働くのではないかと考えたが、ご指摘の通り、連子窓とした論理構成がまとまりきれいていないので、文化庁提出までに整えたいと思う。

⇒委員

・中国の事例、そんなに古いものは実物で残っていないと思うが、五台山図を見ても、門の上に連子は付いていないと思う。

⇒委員長

・瓦の重量の軽量化について、瓦を短くして、軽くするという事例はあるか。

⇒委員

・瓦の厚さを薄くして、荷重を減らすという例はよくある。

⇒委員長

・同じ大きさだけど軽い方がより良いと思う。

⇒事務局

・この点はまだ検討が必要だと思う。

⇒委員長

・実際に施工する時に多少ずれが出るということはあると思うが、初めからそこを目指すのではなく、復元案としては整数でいい。塀のコーナーの腕木についてはどうか。

⇒委員

・ないと重量的にもたないということを理解したので、これはこれでいいと思う。

⇒委員長

・図面のままだと腕木が相当目立つと思うが、斜めの腕木だけで、90度の腕木はないのか。

⇒事務局

・90度の腕木もあるが、隅柱につく腕木だけが高さが増すので、目立つということはあるかもしれない。

⇒委員長

・これぐらいの大きさがないともたないという計算になるのか。

⇒事務局

・長さが1.4倍くらいないと隅になるので、荷重に耐えられない。

・下野の薬師寺は太い回廊の部分で、秋田城の復元建物は角の部分は造っていない。そういう意味でも事例を探しにくい場所ではあるため、古代建築専門の先生に最終チェックをしていただく予定にしている。

⇒委員長

・管理計画については、どのように検討しているか。

⇒事務局

・今回の整備事業は、現在の整備基本計画の中において、長期計画の範囲に含まれていた事業まで一旦完了することになる。

・今回の整備事業を受けて、整備基本計画の改定が必要になるので、その中で新たな管理計画も合わせて策定する方向で考えている。

⇒委員長

・それは、この委員会の議題となるのか、他の委員会となるのか。

⇒事務局

・本委員会の方にお諮りする内容かと考えている。

⇒委員長

・構造について説明があったと思うが、これはベタ基礎にして遺構面を保存して盛土があまり大きくなならないような形で施工するというのか。

⇒事務局

・今回、地形復元で70cm盛土を行うので、今の現地表面以下にも影響のないような形で施工する。また3mの一本柱、区画塀を支えるための独立基礎の深さがこれぐらいまでは必要になるという形で図示したものになる。

⇒委員長

・独立基礎も遺構面まで及ばないということか。

⇒事務局

・遺構面まで十分に保護層を確保している。

⇒委員長

・復元塀と整備塀について、柱間は復元するのか。

⇒事務局

・柱間は復元している。屋根は垂木の状態となり、整備塀は復元塀の構造展示のようなイメージになる。

・素材については、鉄骨に木の塗装を想定している。

⇒委員長

・人が行き来できなくなるので、通路を2間ずつ造る。

⇒委員

・これは非常時に使うものか。

⇒事務局

・通路は日常使いを想定している。

⇒委員

・トイレに近い部分で布掘りがないので、そこがトイレの出入り口になると思うが、それを表現することはできないのか。

⇒事務局

・入口があったことを説明して、なおかつ解説パネル等で展示してくことになる。今考えているのが1間分の縦格子があってその裏にトイレの地上表示があるというイメージとなる。

⇒委員長

・北西、南西コーナーのところだけでも一本柱の復元塀にできないのか。

⇒事務局

・全て調査しているわけではないので、全て復元塀で囲うというのは認められないので、整備塀という形でなんとか認めてもらった経緯がある。

⇒委員長

・北西や南西部分は掘ってないのか。

⇒事務局

・半裁して土層面の確認までしている。

⇒委員長

・トイレの整備はどのような形になるのか。

⇒事務局

・地上表示で色を変えた部分がトイレの遺構であったと示すという考えている。

⇒委員長

・表面表示のみか。

⇒事務局

・深く掘るのは、中央谷と一緒に公園利用の面から考えて難しい。

⇒委員

・保守点検の件だが、令和9年度の9月下旬ぐらいからとなっているが、復元施設の運用開始は令和8年度の終盤となっている。その間は保守点検をしないということか。

⇒事務局

・まず地形復元の工事から始まって、東門のお披露目を8年度の秋頃に1回行う。その後、1回閉じて、工事ヤードにしてしまうので、保守点検は9年度の後半からでも問題ないと考えている。

⇒委員

・北館と南館の間の中央谷の部分に監視カメラの主軸がないように見えるが、どういう考え方で全体のセキュリティが守られる形になるのか補足の説明はあるか。

⇒事務局

・防犯カメラの設置位置については、警備会社等にヒアリングを行い、最低限の内容を提示されている形となる。
・ご指摘の通り、中央谷部分に段差があるので、何か事故があってもいいように、この辺りに今後カメラを足すことを考えている。

⇒委員

・北館・南館の復元壁も含めて、夜間十分に監視の目が届くようにしていただければと思う。
・実施設計で植栽の位置は決まっているという理解でよいか。また、今回の植栽計画はどのような効果を狙ったものなのか、利用者サイドの点からも補足で説明してほしい。

⇒事務局

・鴻臚館を利用される方は、上之橋御門と駐車場の方から入ってこられる方が多くなると想定される。
・東門と区画塀、整備塀で、1回視界が遮られてしまうので、福岡城の石垣を隠すということは、難しいと考えている。
・東門を抜けて、体験・活用施設を抜けた際に、シーンを切り替えるための演出の1つとして疎林帯を置いて、その先に福岡城の石垣が見えるという形での演出を考えている。
・西側からエリアに入ってくる方に対しては、体験・活用施設を抜けた先に、東門の背面が見えてくることになる。
・体験・活用施設については、西側と東側で表情の異なる建物を建てることで、明確に鴻臚館エリアと福岡城エリアを意図的に分けるというやり方もある。
・そのシーンの切り分けの手助けとして疎林帯を配置したいと考え、効果を期待して計画しているところ。

⇒委員

・施工発注かける際、今のような意図については、仕様書に記載されていくのか。

⇒事務局

・記載する予定。

⇒委員

・随分松が少ないと思った。もう少し松を増やすことはできないのか。

⇒事務局

・公園部局と相談して、検討したいと思う。

⇒委員

・今後どう活用するのかを考える際にどこに街灯をおくのか、配線はどうするのか等考える必要があると思う。

⇒委員長

・電気の配線については、考えていると思うが、今まで照明に関する計画の説明をあまり聞いてこなかったと思うが、そのあたりの検討状況はいかがか。

⇒事務局

・史跡の回遊ルートについては、フットライト等で安全性を確保する。
・土橋の左右にもきちんとライトを設置して、安全対策はとるということで計画している。

⇒委員

・東門をライトアップするということは考えているのか。

⇒事務局

・演出計画としては東門の瓦屋根に月明かりが当たるようなイメージで計画を立てている。
・あわせて区画塀は白壁なので下から照明を当てて、鴻臚館東門が浮かび上がったようなイメージでできないか検討している。

協議事項 鴻臚館跡展示館の展示リニューアルについて

委員

・11世紀の焦土層があるのか。鴻臚館の焼失とあるが、遺構の部分も焼失したのか。

⇒事務局

・明確には分かっていない。焦土層は確認されていないと思う。

⇒委員

・確認されていないことだから、そこは気を付けた方がいいと思う。

⇒委員長

・鴻臚館跡展示館では、出土遺物の現物を見ていただける、それを展示のメインにすべきと思う。
・映像よりも出土遺物の現物をメインに考える計画にしていいただけるとありがたい。
・覆屋としての価値、遺構のすごい迫力を感じていただける計画だと良い。

⇒委員

・今ご提案いただいた内容は、この展示館に全て収まるのか。

⇒事務局

・容量的な話はきちんと計画して、落とし込むということになっている。
・これまでは復元建物の中は、イベントのときだけ職員が立ち会って利活用していたが、その中にも入りたいというお声が非常に多かったので、建物の中に入って映像を見ていくというふうな設えにしている。
・有効空間としては、前回よりも実際に使える面積が上がるので、その分いろんなコンテンツが入っている。
・遺物をどこまで展示できるかというのもあるが、こちらは遺構の覆屋で、博物館相当施設ではないため、仮に遺物が重要文化財になってしまうと、全部移設されてしまうという恐れもある。
・その辺りは様子を見ながら極力実物を見ていただきながら、突然昇格しても対応できるような設えにしておく必要がある。

⇒委員長

- ・砂金は日本からの交易品としても大事なもの。西アジアのガラスや朝鮮半島で中国のものと合わせて、日本の鴻臚館でこういう交易をしていたってことが分かる。砂金のレプリカはつくっているか。

⇒事務局

- ・砂金のレプリカはつくってない。

⇒委員長

- ・復元建物は外国使節が泊まった場所であることが、ちゃんと分かるようにしていただけるとよい。
- ・どういう食事を出したかという説明もあった方がいい。
- ・ここでは中国の人との間で、漢詩のやりとりをした非常に重要な資料が残っているので、一般の方にはちょっと漢詩は難しいかもしれないが、分かりやすく展示していただけたらありがたいと思う。

⇒委員

- ・現物の迫力をちゃんと伝えるっていう話と、現代に生きる人に伝えるデジタル手段があるということの組み合わせで、ご提案いただいているのは非常にいいかと思う。
- ・発熱量の多い機器がたくさんあるが、それに見合った電力を使うと思うので、配線やバッテリー関係の設置、空調、この辺りのスペースが必要になるのではなかろうかと思うが、どこに確保される予定なのか。
- ・デジタル手段というのは、時間が経っていくと、技術的な劣化が起こってくる。
- ・機器、コンテンツ両方の更新が必要なタイミングが出てくると思うが、そのあたりを少し補足して教えていただきたい。

⇒事業者

- ・熱や配線については、一般的ないわゆる屋内の展示施設の中でも、機器を設置する際は、天井の裏や什器の中に仕込むものは、運用上問題はないと考えている。
- ・コンテンツや機器に関しては、基本的には保守メンテは、いずれにしても必要となる。

⇒委員

- ・配線・熱関係は、現状で大体目途が立ちそうだという理解でよろしいか。

⇒事業者

- ・電気容量がおそらく足りないので、分電盤の追加などを想定している。

⇒委員

- ・遺構の上にガラス床を張って、その上のスペースを利活用するという意味ではいいが、結構湿気があったり、苔が生えたりする。そうすると上をガラスで覆ってしまうと実際にはすぐ水蒸気で曇ってしまうとか、それを避けるために乾燥させるとか、また別の要素も必要になってくる。その辺りをどうお考えか。

⇒事業者

- ・その点に関しては、もう少し市と詰めて協議が必要と考えている。

協議事項 今後の鴻臚館跡復元整備事業の進め方について

委員長

- ・鴻臚館の史跡の範囲内は鴻臚館の方で、保存活用計画をこれから策定し、整備の基本計画も改定しようということだが、ご意見ご質問いただきたいと思う。

⇒委員

- ・ここはお城と鴻臚館両方あるわけで、来園者がこれをどう理解するかということがある。
- ・この場所は、時代別にストーリーをどこかで示す必要があると思う。

⇒事務局

- ・先ほどから何度か歴史の重層性っていうキーワードが出ているが、今回の鴻臚館跡整備事業の中で、鴻臚館の範囲の中については、古墳時代から例えば平和台まで歴史の重層性の展示・解説を行って、理解をしていただくような流れは考えている。
- ・将来的には、鴻臚館の保存活用計画を立てながら、あとは福岡城の計画とリンクして、なおかつセントラルパークの中の歴史の解説に、きちんと紐づけられるような作り方をしていきたいと思う。

⇒委員長

- ・鴻臚館に海外から来られた大勢の方が見て、伝わるような説明の仕方をサイン・説明板・パンフレット等も含めて考えるべきだと思う。

⇒事務局

- ・福岡市では、歴史文化ウィークという形で1ヶ月ぐらいかけていろんな体験イベント等行っている。
- ・体験・活用施設については常時に近いような形でいろんな体験ができるようなメニューも入れていくことになっているので、計画がある程度みえてきたら委員会でお諮りしながら、ご意見いただければと思う。

⇒委員長

- ・鴻臚館は福岡市が海外に開けた土地だったということを象徴する場所であったことを、特にこれから発信していかないといけないと思う。

⇒事務局

- ・今回のハード整備とあわせてソフト事業の方も充実させていく考えて今動いている。

⇒委員長

- ・東門の復元ができたらまた市民の方にアピールして、どのような場所だったかを説明するような発信をしていただきたい。

⇒事務局

- ・儀式等のことについても委員会でお諮りしたいと思う。

⇒委員

- ・鴻臚館のメインの入り口になっている場所は、もともと海であったことも含め、何かそういう歴史の背景を皆さんが理解できるようなことが何かできないかなと思う。

<閉会>